

53 Pick Up!と 霞ヶ浦の小さな自然再生が 日本水大賞の環境大臣賞に!

我ながら
快拳ですヨ!



表彰状

日本水大賞
環境大臣賞

霞ヶ浦の豊かな自然環境を目指して
釣り人の想いから始まった
湖岸清掃活動とその後の発展

NPO法人 水辺基盤協会 殿

あなたの活動は水循環の健全化に
大きく貢献するものです
その功績に敬意を表しここに
第二十七回日本水大賞の環境
大臣賞として表彰いたします

令和七年七月八日

環境大臣 浅尾 慶一郎



2025年7月8日、東京都心の湾岸にある日本科学未来館のホールで表彰式が行なわれた

①水辺の清掃活動「53 Pick Up!」
と「防塵挺身隊」
特徴は釣り人ならではのウエー

釣り場への恩返しとして、そして、ゴミのない水辺で気持ちよく釣りを楽しみたいということで、釣り人が続けてきた湖岸の清掃活動「53 Pick Up!」(ゴミビックアップ)が国レベルの大きな賞に輝きました。賞の名は「第27回日本水大賞の環境大臣賞」です。副賞として活動資金50万円もいただきました。

日本で初めてバスプロ宣言をした吉田幸二さんが、霞ヶ浦の水辺で30年ゴミを拾いまくった末に、秋篠宮皇嗣殿下に見守られつつ環境大臣賞を受賞する姿は、いろいろな面で胸が熱くなるものがありました。

評価のポイントは何だったのでしょうか？ 吉田さんが代表をとめるNPO水辺基盤協会の活動は大きく3つです。

③環境学習

清明川植生浄化施設における生物調査、親子釣り体験教室を実施

いずれも、水辺を釣り場として利用する釣り人が、水辺のために活動していることが環境大臣賞にふさわしいと高く評価されたようです。

とはいえ、そもそも「ゴミのない水辺で気持ちよく釣りを楽しみたい」「魚や生き物を増やしたい」という釣り人のエゴから好きで勝手に始めて、楽しいことがパワーになって長年続けてきた活動です。だからこそ、新しい世代に伝えつつ、これからも活動を続けていくのです。B

●日本水大賞（にほんみずたいしょう）

水に関する優れた活動や、水の健全化に貢献した個人や団体を表彰する日本の賞です。設立は1998年。主催は日本水大賞委員会（事務局：日本河川協会）と国土交通省。名誉総裁は秋篠宮皇嗣殿下で、現在の委員長は元宇宙飛行士で日本科学未来館の名誉館長、毛利衛さんです。日本水大賞は年1回募集があり、学校、団体、企業、個人、行政などが応募できます。今回（2024年）の応募数は75件。2025年の応募期間は7月7日から10月31日まで。審査を経て翌年3月に受賞者が発表されます。

●NPO水辺基盤協会

1995年に霞ヶ浦のバスアングラーが始めた清掃活動を、地域行政と協力して実施するために、2005年に設立したNPO。代表は吉田幸二さん。霞ヶ浦で年2回のゴミビックアップ（53 Pick Up!）活動や年6回ほどの局地的な清掃活動のほか、湖岸の自然再生や、釣り体験などの環境学習に取り組んでいる。また、全国各地の53 Pick Up! 活動を支援している。活動の参加方法はSNSなどで告知。個人や企業の会員、寄付を随時募集しています。



吉田「この受賞は全国各地で53 Pick Up! 活動に励んできた釣り人の皆さんのおかげでもあります。釣り場として利用している水辺の清掃を続けていきましょう！」



秋篠宮皇嗣殿下（右）に見守られつつ表彰されるNPO水辺基盤協会理事長の吉田幸二さんと事務局長、吉田圭子さん（ド緊張……）



秋篠宮皇嗣殿下のお言葉

「日本水大賞は、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる日本を目指して、水循環系の健全化に向けた諸活動を広く顕彰するものです。（中略）私たちは、水から受ける恩恵に感謝し、健全な水循環系を礎とした国土と自然を後世に引き継いでいかなければなりません。多くの人々がそれぞれの地域で水を守り、水について考える活動を実践していかれることを願っております」